

たすけ愛信太だより

発行:たすけ愛信太
<世話人>
藪下 純男 (田原)
井本 正和 (嵯峨谷)

2021年3月 第3号

- す み よ い 地 域 を め ざ し て -

「第4回たすけ愛信太会議」で出された意見

(1月22日 金 旧信太小学校)

—これから「たすけ愛信太」がどういう活動をしていけばよいか(意見交換)—

・「たすけ愛信太」の今後の取り組みとして、今で
きる小さな事から始めてはどうか。和泉市のような
(下記参照)方法もあるが、例えば隣近所の一人暮らし、
車に乗れない人、見守る必要がある人を対象に、
「買物はないかい?」「困ってることはないかい?」
等の声かけをしていく。また、家族がいても日中は
独居状態になる人もいる。各区でそういう人に対し
て限定的に取り組みを充実させていってはどうか。
・しかし、和泉市のように、一例として移動支援の
ようなことをシステム化すれば、自分の希望する日
や時間にそういうことを頼めるという良さもある。

— 移動販売についての情報 —

・高野口商工会の青年部(あきんどの会)の取組み
みとして移動販売(週2回くらいの巡回)を行うこ
とを検討している。とりあえずは、ふれあいサロン
などの高齢者の集まりの場に依頼を受けて買物カ
ーを配車して販売したいと考えている。
(あとは口コミ)かつらぎ町等、他の
町では既に実施しているところがあり、
信太地域においても今後住民の皆さん
の考えをまとめていく必要がある。



《移動販売について、ご自身の考えや希望を区長やたすけ
愛信太の世話人に伝えていただければ幸いです。》

【研修会の報告】 - 和泉市鶴山台北校区の事例 - 2020年11月29日橋本市保健福祉センターにて

テーマ:「高齢者を支える助け合いのしくみについて」

講 師: 和泉市鶴山台北校区高齢者サポーターセンター 和泉市ボランティアグループ代表 佐藤 正浩氏

団体の概要

- 活動実績 (2017年度) → 活動者の実人数/20人、利用者の実人数/40人、
年間件数/60件、コーディネーター: 1人
- 主なサービス・活動 → 日常生活における困りごと支援(家具移動、粗大ゴミ搬出、草
刈り、電球の取り替え、日曜大工、ペットの散歩、見守り、話し相手など)
- 費用 → 入会料: 0円(年会費不要)、利用料: 1人活動30分500円、1時間以内800円

取り組み

和泉市ボランティアグループが、目指すまちの姿として掲げた目標の一つが「高齢者の日常生活の中でちょっとした困りごとの手助けをする」というもの。困りごとの声に応えるとともに、元気な活動者(人材)が活躍できる、ご近所の助け合いの仕組みをつくっている。対象者は、校区内在住の60才以上で介護認定を受けていない人。受けていても介護保険外の支援を必要とする人とした。地域のサロンや歌、体操の場などでPRし、口コミで徐々に利用者が増え、2年目となる2017年度は、12月末時点で60件程度の依頼に応えた。

ボランティアは校区全体へチラシで呼びかけたが、これまで地域活動で培った人脈で声をかけた人達もたくさん集まってくれ、20人がそれぞれの得意分野で活動している。



西川区 山本芳照さんに日頃考えていることを書いていただきました。



住み慣れた地域で

「人生の終末まで住み慣れた地で安心して暮らしたい」こんな願いを持っている人は多いと思います。

しかし、高齢により車に乗れなくなったり、一人だけの生活をしなければならぬ時が必ずやってきます。これまでは考えもしなかったことが未来に待ち構えています。

信太地域の良さを発見

もう、既にこんな問題を抱えている人も増えています。

介護保険に助けられて生活している人が多くなってきましたが、介護保険だけでは対応しきれないことも多々あります。そうした中で地域の助け合い、相互扶助が今後の大きな課題となっています。

田舎暮らしの私たちは、昔から地域がまとまって共同作業をしたり伝統文化を守ったりしてきました。しかし、高度経済成長期以後、農村部にも地域のまとまりが減り、地域が協力して取

り組むことや、ちよつとした助け合いもでき難い状況が生まれています。

今、大切なことは、昔からの田舎の良さを再発見し、「皆で力を合わせて暮らしやすい地域をつくっていく」ことだと思えます。

楽しい憩いの場を

そこで私が思うことは、信太小学校跡地の有効活用で、私たちの未来に希望が持てるようにしていけたらと思うのです。「地域のコミュニティセンター」「高齢者の居場所」「憩いの場」「ボランティアセンター」などなど、地域の人たちが、いつでも出かけられて楽しく過ごすことのできる場をつくれたら良いですね。

外部の人もつれもてやってこられる場を作り、いつも笑い声やメロディが流れる、そんな場所として信太小学校跡地を有効活用できればと夢を抱いていました。

先日、信太小学校跡地の活用について教育委員会主催の説明会が開かれました。その説明は、今後の活用については民間会社に委託するという内容であり、信太地域の住民が当局に出していた要望とはちよつと離れていると感じましたが、教室の一部は地域住民が

使えるようにするということでした。

信太地域の大切な資源である小学校を、「少子高齢化が進む地域の活性化にもう少しウエイトを置いて使えるようにして欲しい」と感じました。今後、小学校の活用と、第2層協議体「たすけ愛信太」の活動については相互連携をとりながら進めて欲しいです。人は一人では生きてはいけません。居場所づくりと交通手段はいきいきと生きるための必須要件です。

人材の発掘・実践を

地域資源（人と土地、伝統文化等）を生かして、夢を持って生きられる場、遊び学べる場、必要としている人への支援の場をつくることができたらと思います。信太には10年前から「ふれあいサロン 田園」があります。この活動経験も地域づくりには生かせるのではないのでしょうか。

やれる事から、やろうという人から始めていきませんか。「たすけ愛信太」が中核となつて多くの隠れた人材を発掘し、大勢の人が参加して信太ぐるみで取り組んでいけたらと思う毎日です。

